

此鳥、春木の上へ箱を釣野の鳥を玉子を産せ、鶏にかへさせ、是を生立、子飼とす、此子飼、庭などへ放し、庭籠にてもかへば産巢するもの也、此鳥のいじけたるを生立、岩おしなど、名付る事、大きに間違也、

〔食物和歌本草二〕鴛鴦フシドリ

をし鳥を酒付あぶり疥癬や瘡に傳べし冷ば取かへをし鳥を夫婦の中よからぬに名いはでくはせ相おもふ也

〔日本書紀二十五〕大化四年三月、皇太子智妃蘇我造媛聞父大臣田石川麻呂爲鹽二物部所斬中

略造媛遂因傷心而致死焉、皇太子聞造媛徂逝、愴然傷但、哀泣極甚、於是野中川原史滿進而奉歌

曰、耶麻賊播爾、鳥志賦拖都威底陀虞毗預俱、陀虞陞屢伊慕乎、多例柯威爾雞武、

〔出雲風土記鳥根郡〕法吉坡、周五里深七尺許、有鴛鴦、

〔續日本後紀仁五〕承和三年五月庚戌、鴛鴦飛來、雙集辨官廳南端、

〔萬葉集二十〕二月字〇天平於式部大輔中臣清麻呂朝臣之宅宴歌十首

伊蘇能宇良爾、都禰欲比伎須牟乎之杼里能乎之伎安我未波、伎美我末仁麻爾、

右一首、治部少輔大原今城真人、

〔古今和歌六帖三〕をし

君が名も我名もをしのひとつがひ同じ江にこそ住まほしけれ

〔枕草子三〕鳥は

水どりはをしいとあはれなり、かたみにあかはりて、はねのうへの霜をはらふらなどいとをかし、

〔古今著聞集二十魚十禽獸〕みちのくに田村の郷の住人、馬允なにがしとかや云おのこ、鷹をつかひけ